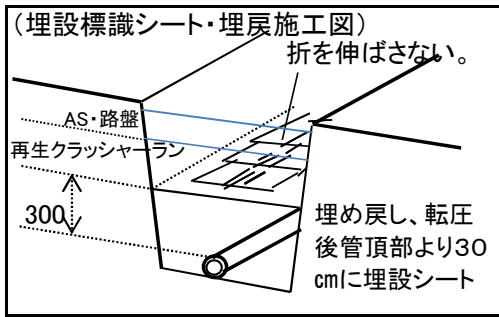


**各継手については、耐震型を使用すること。
(インコア打ち込み型や内蔵型など、メーカーにより異なる)**

○ **メーター一次側の材料は(公)日本水道協会の認証製品とする**

(施工上の注意)



管上30cmまでは再生砂、路盤までは再生クラッシャーランで埋め戻すこと。
AS復旧は3cm以上の合材を敷設すること。

- ポリエチレン管(1種二層管)を使用し、溶剤浸透防止スリーブを設置すること。挿し口部は必要に応じて**面取り**を行うこと。
- 水圧テスト・穿孔・コア挿入は水道局の立会が必要。
(水圧テスト、コア挿入は**工事写真に水道局職員が入る必要あり**)
- 水圧テストは0.75Mpaで10分間静置後0.65MPa以上あれば合格とする。
・テストポンプは、分水栓に取りつけます。
・水道局職員が到着してから水圧をかけます。
・分水栓【開】、止水栓(副弁(栓))【閉】で行います。
なお、副弁(栓)は水道局職員で操作します。
- 穿孔は、分水栓、止水栓(副弁(栓)含む)を全開にした状態で行うこと。
- 工事写真は、施工場所、申請者名、施工業者名、水栓番号を記載し、取出管の管種・口径・寄り・深さ、引込管の管種・口径・深さなどを記載した看板と一緒に撮影する。看板に書いた文字等が、後に確認できるよう留意すること。
- 被分岐管が粉体塗装管の場合は専用の穿孔刃を使用すること。
- EF接合チェックシートを記入し、**竣工時**に提出する。

2次側について

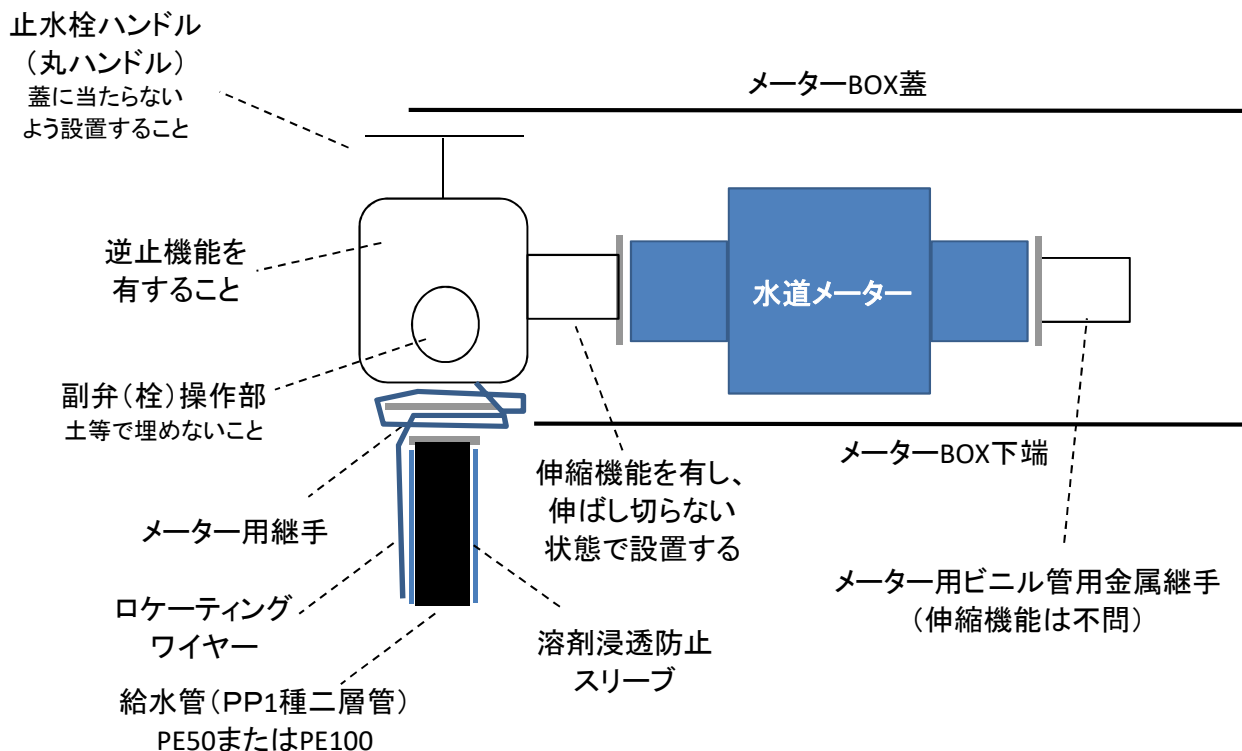
- 水圧、水量、水質は給水装置工事主任技術者の責任により検査必要。**残留塩素は、0.1mg/l以上必要**
- 材料に関しては*** 認証機関**の認証製品であれば使用可能
- 施工に関しては主任技術者の責任施工。(後日の事故等についても同様)

* 認証機関

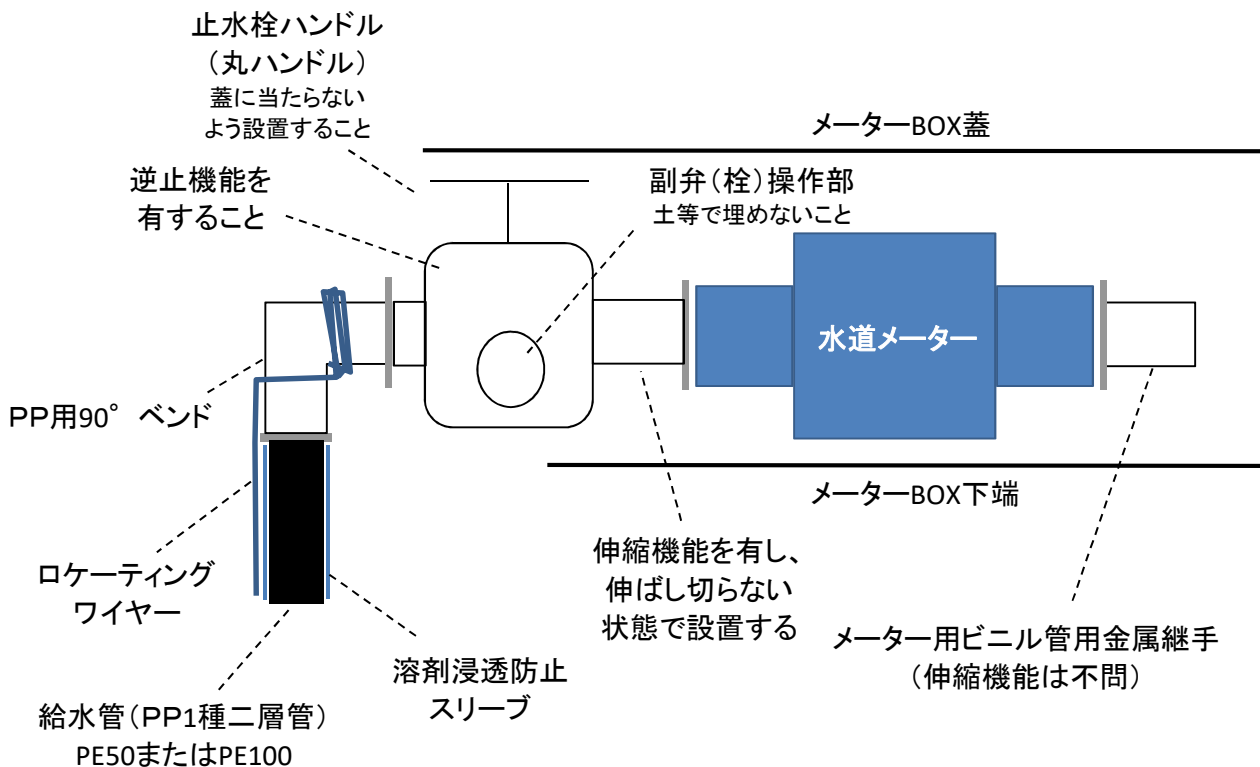
- (公)日本水道協会
- 財)日本ガス機器検査協会
- 財)日本燃焼器具検査協会
- 財)電気安全環境研究所

止水栓部詳細図

副弁(栓)付縦型直結伸縮式止水栓



副弁(栓)付横型直結伸縮式止水栓



写真看板記入例

給水管引込工事
申請場所
申請者氏名
穿孔/ドレン 状況
密着コア挿入状況
埋設シート布設状況
水栓番号
業者名

給水管引込工事
申請場所
申請者氏名
本管・分岐口径
(官民境界からの寄り) O.Om
H= L=
水栓番号
業者名

給水管引込工事
申請場所
申請者氏名
水圧テスト
MPa 時間
検査開始 0.75 11:04
検査終了 0.73 11:14
水栓番号
業者名

工事写真必要項目(※水道局職員写真に入る)

- ・サドル分水栓取付状況(寄り、深さ)
- ・水圧テスト※
- ・穿孔状況(ドレン状況)
- ・密着コア挿入(本管が鋳鉄管の場合のみ)※
- ・配管状況(深さ)
- ・埋設シート(深さ)
- ・融着状況(本管がポリエチレン管の場合のみ)
- ・融着完了状況(本管がポリエチレン管の場合のみ)

補足事項

- ・サドル分水栓取付状況(寄り、深さ)
取り付けたサドル分水栓の横(本管上)の寄り、深さを含めた写真とし、寄りは官民境界または仕切弁鉄蓋等を起点とした写真とすること。(竣工図に記入が必要です)
- ・水圧テスト(開始水圧:0.75MPa)
確認時間 10分間 写真は検査終了時のみ
(開始後3分間(予圧)で軽易なミスによる水圧不良がないか確認する。)
(予圧は黒板に書かない)
- ・密着コア挿入
挿入状況の写真のみ必要です。挿入前後は、水道局で状態を確認するため、写真は不要です。
- ・配管状況
分水栓から止水栓に至る配管状況の写真が必要。
- ・融着完了状況
融着後のインジケーターの突起の状態が確認できる写真とすること